大阪大学サンフランシスコ教育研究センター便り
―「咸臨丸」太平洋横断150周年と早期留学の薦め(2)

海外交流

久　保　井　亮　一*

Report from Osaka University San Francisco Center for Education and Research

Key Words：Global Leader Innovation University-Industry collaboration International Networking International Communication

小生が、4月9日サンフランシスコ教育研究センター長（室岡初代センター長より3代目）に着任して、約半年が過ぎました。その間、阪大NOW（6号）に、「「咸臨丸」太平洋横断150周年と早期留学の薦め」と題して、赴任早々の思いや、5月頃までのセンターの活動紹介をさせていただきました。

この題名は、着任早々のＳＦさくら祭りでのメインテーマが「咸臨丸サンフランシスコ(ＳＦ/桑港)入港150周年」で、その印象が強かったこともあります。

しかし、それ以後もＳＦ総領事館、Japan Society、大阪-ＳＦ姉妹都市委員会等の主催で次々に開催される150周年記念シンポジウムや関連行事に出席し、各界の様々な方々や、北米同窓生、さらには咸臨丸と同じ航路を辿って5月にＳＦに入港した海王丸実習生、ワシントンＤＣからＳＦまでグループ討議を重ねながら大陸を横断してきた日米学生委員会の学生たち等々と話し合いを重ね、またお互いに情報交換し、激励し合う度にその思いは益々強くなりました。

大阪大学創立80周年―原点へ 未来へ―を迎える今、日本の、そして大学の、或いは全ての組織の内なる国際化が叫ばれる今、ますますその重要性は増しているように感じられるのです。

ＳＦセンターでは、毎年「世界は今―サンフランシスコから」と題する遠隔講義を教育実践センターと協力して、主として新入生向けに提供しております。

長嶺総領事による第一回講義（4月15日）でも、咸臨丸桑港入港を原点とする日米外交史150年でした。福澤諭吉ら適塾卒業生や現在も外務省で頑張っている多くの先輩たちに負けずに、大阪大学の新入生たちよ、新世界アメリカを発見したコロンブスのように、或いは心に真っ白な大きなキャンバスを持って新世界に飛び出せ！　米国は今、元気が一番の日本からの若者を待っている。（また必要としている）とエールを送っていただきました。小生も全く同感で、7月の小生・松山の講義でも、違った角度から同様のエールを送らせていただきました。ＳＦセンターは、日米の若者が出会い、新大陸で活躍する舞台であり、また皆さんの応援団です。さあ！　夢見て、願って、行動しよう！と。

ここでは、同じタイトルで短い続報を書かせていただきたいと思います。

（注）ＳＦからの前期遠隔講義は各界で活躍されている方から“What are you?”（貴方は何者か？これまで何をしてきたのか？何の為に生き、これから何をしたいのか？）との、日本で忘れがちな自他への問いかけを日本語で、一方後期遠隔講義では英語で“What are you?”米国の大学のリベラルアーツを米国式の双方向型講義で学びます。

・UC Davis(Extention)での夏季工学英語研修生とUC Berkeley, International House学生との第1回日米学生交流会

当ＳＦセンターでは、今や大阪大学の大きな特徴の一つともなっている各種の学生主導型の国際交流

*Ryoichi KUBOI
1946年2月生
大阪大学大学院基礎工学研究科化学系専攻（1974年）
現在、大阪大学サンフランシスコ教育研究センター　センター長　工学博士　生物機能材料設計学・Membranomics
TEL：415-296-8561
FAX：415-296-8676
E-mail：kuboi@osaka-u-sf.org

プログラムの一環として、日米学生交流会議の可能性の検討や支援について創立80周年の佳節を祝う意味からも、持続的に検討を行っている。

日米学生間の新たな国際交流プログラムの一つとして、UC Berkeley, International House(I-House)での阪大生主導学生交流会を開拓すべく、関係者（館長のMr. Martin Brennann氏や理事の松浦功氏ら）に当方の希望を伝え、また情報交換を行った。その結果、I-Houseでの日米学生交流会を歓迎するとの意向であった。また毎年UC Davisで実施している夏季工学英語研修の主催部局（工学研究科）や参加学生たち（主として、M１生16名）の賛同も得られた。そこで研修最後の二日間で実施する予定の当センター主催ＳＦ研修の初日9月13日に実施することとした。詳細は割愛するが、UC Berkeley, I-Houseでの日米学生交流会第１回は関係者の協力のおかげで、幸い無事に成功裏に終えることができた。創立80周年を祝う来年度に向けた企画が益々重要である。

学生交流会の早期実施が実現したのは、先ず何より正・副チームリーダーがメンバーの掌握力でも優れていたこと、学生たちの意欲やチームワーク力が抜群であったこと、さらには同プログラムが今年度・次年度はGLOCOL共同研究事業（学内連携）に採択され、当センターも申請に参画していた「理工系学生における異文化間コンピテンシー向上のための教育に関する実証的研究」（主査：池　教授）の一環として実施できたこと等によると思われる。

・若手グローバル・イノベーション人材育成による未来科学技術の開拓ワークショップ
（2010年11月29－30日開催）
－80周年記念事業として日米協働グローバル人材育成プログラムを提案

8月から9月末まではＳＦ近郊での夏季語学研修プログラムが並行して開講され、本学各部局からの学生・教職員および現地関係者らとの直接的な交流、意見交換ができる貴重な期間である。ＳＦセンターではこれらの実施から得られる生の情報に基づき、また本学創立80周年も視野に収めて、既述の日米学生交流会や標記ワークショップ（日米学生フォーラム）の企画も進めている。新たな咸臨丸（阪大生）の米国ＳＦ派遣を狙うプロジェクトである。

趣旨：　大阪大学及び米国ベイエリア地域の大学・企業で活躍する国際的リーダーを講師として、実践的グループ型ワークショップを通して、未来科学技術を開拓し企業化できる次世代国際的リーダーを育成する契機とする。また日米間のグローバルなイノベーション人材ネットワークの構築を目指す。

実施期間・会場：　2010年11月29－30日，大阪大学サンフランシスコ教育研究センター

参加対象：　大阪大学博士前期・後期課程学生、米国大学（UCバークレー・スタンフォード・サンノゼ州立大等）修士・博士課程学生及びポスドク等十数名程度（阪大での専門家による事前研修は大阪大学からの参加者のみ受講。現地研修は上記のほか、米国の大学・企業の若手人材（若手教員・ポスドク・JUNBA加盟大学大学院生等）・在米大阪大学同窓生等が聴講予定）

現地研修：　2日間で4つの講義を受講し、さらに2つのプレゼンテーション及びディスカッションを行う。これらを通して、キャリアデザイン及び技術の事業化について考察し、自らの研究テーマと社会的展開を俯瞰する契機とする。

本企画は、7月24日に開催されたＳＦ地域北米同窓会からの提案（荒谷・上木同窓会会長・副会長：80周年記念北米同窓会若手派遣・受入奨学金設置構想）にも合致するものであり、北米における阪大同窓生や米国への帰国留学生のネットワーキングを活性化する意味でも重要な意義を有するものと考えられる。

そこで、ＳＦセンター長としても、9月に開催された本部での海外拠点運営会議に出席すると共に、9月末まで可能な限り各部局を訪問し、各部局長やセンター長、Ｇ30，ＧＣＯＥ拠点長、各部局研修プログラム担当者や日頃ＳＦセンターの運営支援等で種々協力いただいている方々へのお礼と情報交換を行い、標記若手人材育成ワークショップについても情報交換し、共催や学生派遣協力等をお願いした。またＷＳ運営支援会議（座長：国際交流室河原教授）を立ち上げていただいた。なお実際の具体的な作業は、ＳＦセンター・国際部連携課および産学連携推進本部(松橋・兼松教授ら）との間でＴＶ会議等で

協議して進めている。

内容の詳細は紙面の都合で割愛するが、ＳＦセンターＨＰ等を参照されたい。

・ＪＵＮＢＡサミット２０１１の開催
（２０１１年１月７日予定）
―「外から見た日本の大学の国際化－日本の大学は国際化したか？」

JUNBA2011について、標記タイトルで日米の学長を交えた討論を行い、将来的に日米大学フォーラムへ展開する予定。午前の日米の学長を交えた討論については、日本側参加者は各拠点２名程度（メインテーブルに学長もしくは理事、英語での議論が可能な人とし、他の参加者は傍聴席）とし、午後は広く日本の各大学間で日本語で討論を実施する予定である。

討論テーマは、大学教育（人材育成）に絞ることとなった。

グローバル人材が必要と言われているが、日米の各大学が社会のニーズをどのように捉え、それをカリキュラムにどのように反映しているか？等々。

（注）現在世界では、米国サブプライム問題に端を発する信用崩壊、百年に一度という先の見えない世界的不景気、確固とした目標・信念・羅針盤の喪失、中国・インドの成長に代表されるグローバル化 / 人口爆発 / 地球温暖化が進行している。又それとは対照的に日本に特に顕著に見られる孤人化 / 少子化 / 高齢化等々が、同時かつ急速に進行している。激動の世界の中で、如何に速やかにかつ穏やかに、新たな世界秩序構造、自然共生型産業・社会構造を構築すべきか、そのグローバルなビジョンの確立と、それに基づく国際交流戦略が、指導者に、また大学に今求められている。

グローバル化時代は、異文化交流に対するフレキシビリティーの弱いもの、挑戦と応戦のダイナミクスの強弱が顕在化する時代でもある。老化しフレキシビリティーの劣化した組織は変化に追随しにくいものであり、これには良い面もあるが、現在の激変する環境の中での進化競争では取り残されガラパゴス化する確率は高い。日本的組織や思考方法と日本文化もその中にあげられている。

また、国際化は使える語学 / 英語教育そのものではないにしても、戦後相変わらずの我国の語学 / 英語教育法の変革と国際化についても議論は多く成されている。しかし実際に効果を上げているようには思えない。英語は単に語学のひとつではあるが、思考方法や異文化受容とも連動しており、他言語や英語の習得は異文化思考へのフレキシビリティー向上とも言える。この点は、欧州の例えばドイツやフランス、或いはアジアの例えば中国・韓国やインドを筆頭とする国々の国際化や進化のダイナミクスは、語学教育を取ってみても日本よりははるかに高い。日本への留学生と接触する機会も多いが、彼らは英語の他に他言語や流暢な日本語を話す。また国際的な組織での貢献意欲やそのために必要な国際的に通用する資格、そして何よりも国際的人材ネットワーキングに強い関心を持っている。

このような留学生たちとの日常的交流とネットワーキングこそ、国際的人材育成への直道であり、日本人学生と留学生との日常的交流組織としての、大阪大学国際学生会議が望まれる所以である。

ちょうど幕末から明治の激動する世界の中で、日本各地からの留学生たちが眠る時間も惜しんで切磋琢磨し、また旧システムから新大陸を目指して飛び出し変革をリードした、適塾の塾生たちのように、また咸臨丸の実習生たちのように（福翁自伝）。

しかしまた、現在の一見繁栄し平和に見える社会の中での日常である故に（ぬるま湯で快適な環境の中で）これ程変革の困難な課題もない。

したがって、新入生の内から海外への（中でも世界から異文化が流入・衝突・混合し、日々にダイナミックな変革が進行する米国への）早期留学への薦めが必要であり、できるだけ早い動機付けを行う必要があると考えられる。

ＳＦセンターでは、以上の他、（注）に項目のみをあげましたが、各種の国際交流活動を行っており、今後とも各部局との関係を大事にして、また他の３センターとも連携して活動していきたいと考えてお

ります。

全米各地におられる同窓生情報、留学・出張情報を始め、関連する情報や、ＳＦセンターに対する要望・照会等、お気軽にご連絡いただければ幸いです。

（注）センター諸活動

・ＳＦセンターからの遠隔講義（前期・後期）の配信

・ＳＦセンターでのＧ30プロモーションセミナーの開催（8月31日（火））

－“Foundation of International College and Innovative Education Programs on the Move at Osaka University: Challenges Funded by the Global 30”

・「工学英語研修」（工学研究科）実施とＳＦ研修（9/13-14）企画・準備

藤田准教授らと、UC Davisでの英語研修視察・懇談（8/19日（木））

・「米国歯科英語研修プログラム」（歯学研究科）“Training Program for Dental English in America”事前協議・歓迎会実施と視察・支援（8月29日（日））

・「科学英語研修」（理学部）“English Language Program for Science” 事前協議・実施と視察・支援（8月29日・30日）

・各部局に応じた日米協働英語研修プログラムの開発

・産学連携への協力・支援（若手教員・PD等のプレゼン遠隔研修他）および教員の研究調査関係の支援と科研費申請協力

・大学間・部局間学術交流協定締結の支援および日米協働プログラムの開拓

・留学フェア（UCB, UCD等）への出展と阪大留学（FrontierLab, OUSSEP, MAPLE等）プロモーション

・北米同窓会総会と5地区同窓会の開催とセミナー等の開催支援

－ワシントンＤＣ・ニューヨーク・シカゴ・ロス・サンフランシスコ同窓会

－大阪大学シカゴ地区同窓会・大阪市シカゴ事務所等との共催セミナーの開催（8月20日（金））

－浅田イブニングトーク「ロボカップ・知能共創システム・ロボシティコア」

・ＣＡ／ＳＦにおける日系社会・各団体の情報収集と人材育成：本学の国際貢献

・その他